



TITLE:

# テリハボク果実の和歌山県白浜町 への三度目の漂着

AUTHOR(S):

久保田, 信

---

CITATION:

久保田, 信. テリハボク果実の和歌山県白浜町への三度目の漂着. 漂着物  
学会会報「どんぶらこ」 2016, 55: 16-17

ISSUE DATE:

2016-12-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/217909>

RIGHT:

許諾条件により、墨消しを施している部分があります。

## &lt; 寄稿 &gt;

テリハボク果実の和歌山県白浜町への  
三度目の漂着

久保田 信 (和歌山県)

Fruit of *Calophyllum inophyllum* L. washed ashore at a coast  
of Shirahama Town, Wakayama Prefecture, Japan  
for the third time

Shin Kubota

熱帯・亜熱帯性のテリハボク *Calophyllum inophyllum* L. の果実の日本本土への漂着例は、1969 年から 40 年間でわずか 18 個だけである (中西・石井 2010)。和歌山県白浜町に所在する京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所周辺の番所崎とそこに隣接する通称「北浜・南浜」の礫浜海岸には、これまで 2 個のテリハボクの漂着が記録されている (2008 年 9 月と 2014 年 11 月に 1 個ずつ: 久保田, 2015)。今回、当該区域に 2016 年 9 月中旬に 3 個目のテリハボク果実が漂着したので記録する。その果実はこれまでの 2 個よりも大形で、直径が 32 mm あった (図 1)。当該区域に 8 年間で本種の果実が 3 個流れ着いたのは、ほぼ毎日定期的に調査している割に頻度はそう高くはないのかもしれない。

「八重山諸島からの果実は (中西 2008)、亜熱帯性なので小形の傾向があるが、より南方の東南アジアなどのものは時々大きなものがある。」とのご教示を中西弘樹先生から頂いた。だとすると、今回の果実は熱帯域からはるばる運

ばれてきたのかもしれない。この漂着には 9 月初旬以来和歌山県沿岸にも影響を与え続けている、例外的に往復コースをたどった台風 10 号はじめ、その後の幾つかの台風も関与した可能性がある。なお、今回の果実と同時にギンカクラゲ *Porpita porpita* (Linnaeus, 1758) も複数個体が 2016 年 9 月 14, 15 日に「北浜」に吹き寄せられて漂着した。

## 謝辞

今回の果実の起源について  
貴重な情報を下さった中西弘樹先生に深謝致します。

## 引用文献

- 久保田 信 2015. テリハボク果実の和歌山県下で 3 例目の漂着記録. 漂着物学会誌, 13: 65.  
中西弘樹 2008. 海から来た植物. 319 pp. 八坂書房, 東京.  
中西弘樹・石井 忠 2010. 日本本土における熱帯起源の漂着果実と種子の 40 年間の変化. 漂着物学会誌, 8: 7-11.

〒 649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459 京都大学フィールド科学

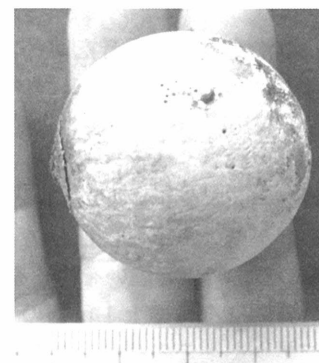


図 1 和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所「北浜」に 2016 年 9 月 14 日に漂着したテリハボクの 3 例目の果実

教育研究センター瀬戸臨海実験所

Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education  
and Research Center, Kyoto University, Shirahama Town 459,  
Nishimuro, Wakayama Prefecture 649-2211, Japan

Email: kubota.shin.5e@kyoto-u.ac.jp

-----